



駒澤会だより

第41号

「自他協創」の精神で築く、学びと成長の場

令和6年12月9日
駒澤大学駒澤会 発行

駒澤大学学長

駒澤大学駒澤会名誉副会長 各務 洋子



令和3年4月に、「DX（デジタル・トランスフォーメーション）」と「ダイバーシティ」の推進を掲げ、学長に就任し、3年半以上が経ちました。本学は、430年以上の歴史と伝統を背景に、学校法人駒澤大学長期ビジョン「駒澤2030」に挙げる「自他協創」の精神を軸とした教育を進め、学生が多様な価値観とともに学び成長できる教育環境を目指してまいりました。

本学の発展を支えてくださる駒澤会の皆様におかれましては、これまで長きにわたり学生たちの成長を支え、夢を追い続けるためにご支援くださっておりますことに改めて深謝いたします。

改めて深謝いたします。

特に「駒澤会奨学金」は本学の学生支援において非常に重要な役割を担っており、今年度は37名の学生に奨学金を支給いただきました。この奨学金は、全国の駒澤会会員の皆様が納められる貴重な会費を原資とし、本学にとって大変貴重な存在となっております。

7月に執り行われた「令和6年度駒澤会奨学金授与式」において、一戸会長より奨学金決定通知書を授与された学生一人ひとりの誇らしく晴れやかな表情から、皆様の想いが、多くの学生に希望をもたらし、彼らの未来を切り拓く力となっているということを感じました。

本学は今後も、変化の激しい現代社会に適応し、新たな価値を創造できる人材の育成に全力を尽くしてまいります。皆様からの温かいご支援とご協力は、未来を担う学生たちがその可能性を最大限に発揮するための原動力でございます。引き続き、駒澤大学と在校生へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

教育後援会と駒澤会との懇親会

総務部

高橋 ゆり子

令和6年8月23日（金）の夕方7時から教育後援会と駒澤会との懇親会が新橋「新橋亭」で開催されました。会場には3つの円卓の席が設けられ、教育後援会からは6名、駒澤会から14名、事務局からは2名で合計22名が出席しました。進行は堀副会長、一戸会長が開会の言葉を述べ、山田副会長が挨拶、森屋顧問の乾杯で会食歓談をスタートしました。橋本事務長、山本教育後援会会長、教育後援会の方、各部会の挨拶もありました。

この日8月23日は、偶然にも教育後援会の創立記念日でした。会は昭和34年に「父兄会」という名で創設され、平成6年に「教育後援会」と改称、令和元年に60周年を迎えています。教育後援会ではその年の会長が漢字一文字で活動テーマを表しますが、平成26年度会長の堀副会長は「輪」。27年度会長の桐畑総務部長は「力」。28年度の吉田厚生部長が「実」だったと話題になりました。

一方駒澤会は昭和46年10月15日に、駒澤大学90周年記念事業一環として「駒澤会「ゆめ基金」奨学金」として発足し、令和3年に50周年を迎えました。同窓会と教育後援会、駒澤会は「駒澤三会」と呼ばれ、駒澤愛で結ばれながら、学生のサポート活動などの活動を行ってきたことが話し合われました。

教育後援会からの参加者も、駒澤会の先輩方も終始和やかな雰囲気の中で懇親し、時間が経つのが早く感じられました。閉会の言葉は市川副会長で「二つの会が盤石の繋がりを持っていこう」と呼びかけました。



市川副会長のご挨拶



絆を深めた懇親会でした

「教育後援会と駒澤会の懇親会」に参加して

駒澤大学教育後援会 会長 山本 健

この度は懇親会にお誘いいただきありがとうございました。

私は昨年につき 2 回目の参加ということもあって、皆様の温かいホスピタリティを感じながら、和やかな雰囲気と美味しい食事を堪能することができました。あらためて感謝申し上げます。

今年は教育後援会から 6 名が参加、昨年は 2 名でした。現状で教育後援会の委員においても、「駒澤会ってどんな会なの？」とイメージがわからないメンバーもおり、駒澤会の奨学金交付を主とした活動が十分に知れ渡っていない部分もあると感じています。

今回は懇親会のお誘いにあたって、事前に駒澤会の趣旨や活動内容を共有しました。また当日は駒澤会の様子や教育後援会の歴史などを直接お聞きし、同じテーブルのみならず多くの方と交流を深めることができ大変有意義な会であったと思っています。

今回のような行事を通して相互の理解を深め、駒澤会の趣旨に共感する教育後援会委員が増えていくことを望んでいます。

私たち教育後援会の委員にとって、4年間の活動で得られた「縁」を、そして駒澤大学への「支援」を、駒澤会を通して継続できる意義は非常に大きいと感じさせてくれた懇親会でした。



教育後援会山本会長（写真左）と大山副会長（写真右）



テーブルを囲んで和やかな雰囲気

静岡県初島での「秋の研修会」に参加して

厚生部 石井 晋一

晴れ渡る秋の日、駒澤会 秋の研修会が実施されました。私は初めての参加ですが、僣越ながら旅程等をお伝えさせていただきます。

本年 10 月 12 日(土)～13 日(日)、研修先は静岡県の初島でのホテルステイ。そして熱海観光です。今回の参加者は 14 名。そのうち 5 名が女性でした。

東京駅発の特急踊り子号にて熱海駅を目指しますが、道すがらの品川駅から乗込む方々もいて、旅の気分は否応なく上がっていきます(アルコールの効用もありますが)。

ただ、私は当日間際まで参加の可否をお伝え出来ずに、事務局の南陽介さんにお手数を掛けてしまいました。心よりお詫びを申し上げるとともに御礼を申し述べるものです(でも、滑り込みは私が最後ではなかったのですよ)。

あっという間に着いた熱海はコロナ明けとインバウンドでなかなかの賑わいです。熱海港から目指す初島までは定期便で約 30 分。



熱海に向かう特急「踊り子号」



海辺の町らしいサザエの殻でできたオブジェ

何百人も乗船できる大きな船は伊豆半島を右手に、後ろには群れを為す海鳥を従えて航行していきます。屋上の展望デッキから与える餌を見事にキャッチする海鳥たちを眺めながら、風に当たっていると日頃の憂さも吹っ飛んでいきました。

そんな面持ちで船上を過ごしていたら、皆さんも同じような開放感と旅の始まりを楽しんでいらっしゃるのかなど思ったりしていました。

さあ、初島に上陸。熱海もそうですが、南国風の佇まい。ランチは港近くの定食屋さんで鰯の刺身などを食べました。

宿泊のホテルは一户会長のお取計で、グランドエクシブ初島クラブ。「東京から一番近いリゾートアイランド」の謳い文句の通りラグジュアリーな施設です。一户会長は自家用車で熱海に向かわれましたが、好天の3連休初日で途轍もない渋滞に見舞われて、5時間以上も掛かれたそうです。お疲れ様です。そして有難うございました。



エクシブ初島クラブ入口にて



非日常感を味わえる南国的な風景

ディナーは、開放感のある吹き抜けのロビーから繋がる螺旋階段を降りたところでいただきました。オーシャンビューの部屋に戻ってから2次会。楽しいお話のやり取りは当然、遅くまで続けました。



部屋での2次会は大盛り上がり



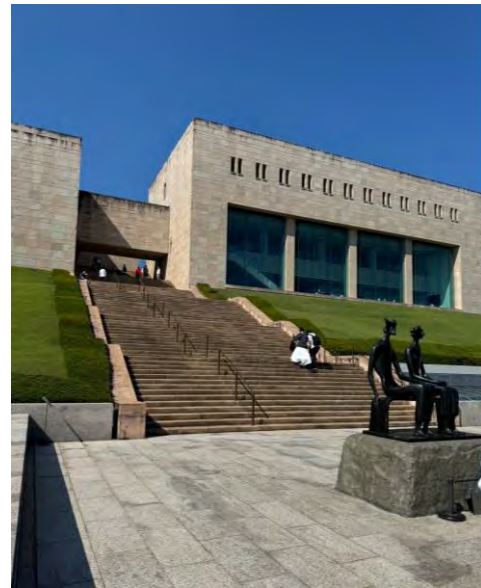
圧巻のホテルロビー

翌日は熱海の混雑を考えると予定していた名所旧跡を巡る移動は難しく、予定を大幅に割愛。港から一路、MOA美術館へ。長いエレベーターを登り切って表に出ると、さっきまで過ごした初島が小さく見えました。展示は「明治の蒔絵」で、いにしえの名品を間近に堪能しました。帰りはバスで熱海駅まで戻るとこの旅も終いです。あとは各自、食事やら買物をして帰途につきました。恙無くこの研修会を終えられたのは、偏に事務局の南さんの周到な準備と適切な判断で臨機応変に対応されたことに拠るものかと存じます。有難うございました。

そして皆様、お疲れ様でした。



訪れた際の企画展のテーマ



高台の神殿を彷彿とさせる美術館でした

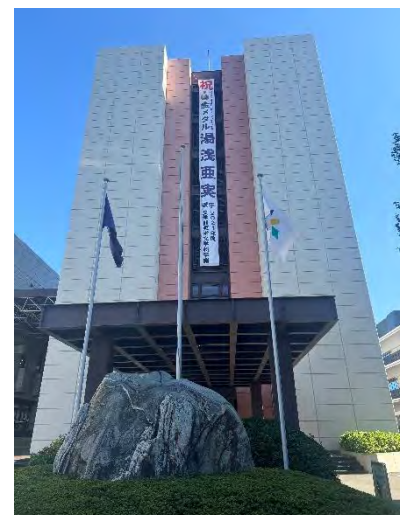
快挙！駒澤大学からオリンピック金メダリストが誕生

パリ五輪のブレイキン女子で、駒澤大学卒業生（R3.3・英米文卒）の湯浅亜実さんが金メダルを獲得しました。

湯浅亜実さんは大学在学中も数々の大会にて活躍をされており、同競技でメダリスト候補として期待される注目選手の1人でした。

オリンピックでの素晴らしい成績を祝福すると共に、これからのご活躍に期待しております。

ご声援ありがとうございました。



駒澤キャンパスの正面に
垂れ幕が掲げられました

37人に奨学金を授与 駒澤会からは5年ぶり

広報部 古橋 明尊

駒澤会からの学業成績が優秀な学生に贈る、奨学金授与式が7月17日に行われました。式には選ばれた37人のうち28人が出席しました。

初めに戸会長があいさつし、「駒澤会は駒澤大学卒業生の父母のOB会として昭和46年に発足し、令和3年に50周年を迎えた歴史のある会です。現在は全国に200名弱の会員がいます。同窓会は全国の大学に必ずありますが、父母のOB会は大変珍しいと思います。今回皆さんにお渡しする奨学金の原資は、発足当初からの先人たちの寄付金と全国の会員からの支援金からお預かりしている大切な資金をお届けするものです。全国の会員の思いを大切にいただき、より充実した学生生活を送ってください」と述べました。

続いて各務洋子学長が次のように話しました。

「本日は本当におめでとうございます。戸会長からご説明をいただきましたが、駒澤会の会員の皆さんは、お子さんが駒澤大学出身で、もう大きくなられていると思いますけれども、それでもなおまだ奨学金をご提供いただいている、本当に貴重な集まりです。他大学ではこういう父母の会で50年以上も続いて学生を継続的に応援しているというのはほとんどありません。今回駒澤会からいただきました奨学金は本当に貴重なものなので、パッと遊びたいと思うかもしれませんが、卒業までの間に学生でしかないことに、自分の発見に使い、自分発見の旅を尽くしていただきたいと思っています」。



各務学長からのご挨拶

そして出席した学生1人1人に戸会長から、奨学金決定通知書が手渡されました。

駒澤会の奨学金は、令和元年度まで学業成績の優秀な学生に対する奨学金でした。令和2年度から経済的に厳しい状況にある学生を支える目的で奨学金要項の変更を行いました。国の奨学金施策が拡大され、経済理由の奨学金は国からの支給でカバーされるようになったため、同年以降は奨学金を提供していませんでした。このため大学と調整・協力して、再び学業成績の優秀な学生に支給するように規定を変更し、5年ぶりに奨学金を出すことになりました。



戸会長より会員の皆様の想いを
伝えていただきました



奨学金を授与された学生との記念写真
ご支援ありがとうございます！

令和6年度奨学金授与者の声

仏教学部 2年 ^{ひろの}廣野 ^{おうか}桜歌さん

この度は、駒澤会奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。昨年度の学業成績をこのようなかたちで評価していただいたこと、駒澤会の皆様には心から感謝申し上げます。

私は、自分が興味を持った物事にはとことん追求していく長所があります。中学生のころから仏像に興味があり、大学に入学する前から博物館やお寺などで多くの仏像を拝観してきました。そのため、駒澤大学に入学を決めたのも仏像を学問の視点から学んでみたいという理由でした。大学入学後は仏像以外の仏教の教理や歴史自体を学んでいくうちに仏教に対しても興味湧くようになりました。先生から与えられた課題をこなす以外にも自分で気になった疑問点は本や論文を使いとことん調べました。仏教についての学びを深めていくと、仏教と仏像の歴史は非常に密接に関係していることに気づき、日本でその当時流行した宗派が仏像にも色濃く表現されていることが分かりました。それからさらに仏像に対しての意欲の熱量が増えていき、夏休みや春休みなどの期間を利用し、多くの仏像を拝観してきました。

来年度から私の学部ではゼミが必修科目として始まります。そして、ありがたいことに私が研究したい仏教美術が学べるゼミに入れることが決まっています。仏像に興味があるといえども私の知識はまだ浅いため、もっともっと知識を深めていきたいと考えています。日本の仏像と他国の仏像との関わりや歴史、仏教宗派と仏像との関わりなどなどまだまだ私が学びたいことは山ほどあ

ります。来年度からさらに仏像に関する知識を多く吸収できるよう学問に精進していきたいと思っています。

今回駒澤会の皆様から頂いた奨学金を有意義に活用し、残りの大学生生活約2年間を悔いの残らないように過ごしていきたいと思っています。この度は本当にありがとうございました。



この度、駒澤会奨学生に採用していただき、心より感謝申し上げます。私の学業に対する努力をこのような形で評価していただいたことを大変光栄に思います。

私は小学生の頃から人類の文明の起源に興味を持ち、大学では最古の文明とされるメソポタミア文明を研究したいと考え、考古学専攻に入りました。授業外でも考古学について学びを深めるため、1年生から2年生の間は考古学研究会に所属していました。測量や発掘調査などのフィールドワークを行い、その成果を報告書にまとめる作業に取り組みました。この経験を通して、普段の授業では得られない考古学の知識や技術を身につけることができ、大学外の専門家と交流する貴重な機会にも恵まれました。

また、大学では考古学のほか、学芸員や社会教育主事の資格を取得するための講座を受講し、今年6月から8月にかけてそれぞれの実習を終えました。これらの実習を通して、私は精神的に大きく成長したと感じています。実習先では子どもから高齢者まで、さまざまな世代の方々と関わることができました。以前の私は、他者からの評価を不安に感じ、人前での発言がぎこちないことが多々あり、それを恥ずかしく思っていました。しかし、ぎこちなくても一生懸命に頑張ることで、その努力が周囲の人に伝わり、良い評価をもらえることが分かりました。この経験から、私は自分に自信を持てるようになり、学業

や与えられた仕事に対してより一層努力しようとする意欲が湧きました。

大学卒業後の具体的な進路はまだ決めていませんが、将来的には大学院でメソポタミアの考古学を専門的に研究したいと考えています。駒澤会の皆様からいただいたこの奨学金を励みにし、今後も引き続き勉学に勤しみ、充実した大学生活を送っていきたいと思います。



この度は、駒澤会奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。昨年度までの学業に対する努力がこのような形で報われましたこと、駒澤会の皆様には心から感謝申し上げます。

私には、大事にしている言葉があります。それは、『夢のマニュアルなんてない。したいようにすればいいじゃない』です。この言葉は、私の好きなアニメの歌詞で、何事にも興味がなくやりたいことすらなかった私を変えてくれた言葉です。

大学生になってから学び始めた中国語に興味を持ち、専門科目の教授にこの件を伝えると、留学という選択肢を与えてくれました。これをきっかけに私は、留学をしてみたいと思うようになり、中国語の学習にもより力を入れました。その結果、中国語検定に合格し、一年間の台湾留学を通して、語学力のスキルアップはもちろん、自分自身を変えるきっかけにもなりました。留学先で出会った友人達の積極さやコミュニケーション力の高さに影響され、消極的だった私を変えてくれました。このように、留学を経験して多くの成果を得ることができました。留学を勧めてくださった教授や中国語の面白さを教えてくださった先生方、私のしたいことを否定せずに応援してくれた両親に感謝しています。

そして今回、駒澤会から頂いた奨学金で新しい勉強法を取り入れることができ、勉強の幅も広げることができています。やはり、自分の成長や挑戦には金銭は重要なアイテムのひとつであると思います。そのため駒澤会の皆様には大

変感謝しています。そして、自分の未来にマニュアルなんてものではなく、10年後の自分が何をしているか分からないからこそ、私は今後も私のしたいように挑戦し続けると共に、お世話になった方々に恩返しがしたいです。大学卒業後も大学4年間を通して経験したことを大切に生きていきます。

改めて、駒澤会の皆様本当にありがとうございました。



- 基金管理委員会からのお知らせ -

基金管理委員会より、前回会報にてご報告した以降の運用状況について、以下のとおりお知らせいたします。

| 運用先 | 令和6年8月～令和6年11月までの利金 | 備考 |
|---------|---------------------|---------------|
| 野村証券 | 263,118 円 | みずほ・三菱 UFJ 社債 |
| みずほ銀行 | 55 円 | 普通預金利息 |
| 世田谷信用金庫 | 311 円 | 定期預金利息 |
| 合 計 | 263,484 円 | |

基金管理委員会 委員長

- 各部入部のお誘い -

駒澤会会員の皆さまに、駒澤会の運営に携わる各部への入部をお誘いしています。

会の運営は、以下の3つの部に分かれて活動しています。2～3ヶ月に1度ほどのペースで会議を行っています。

ぜひ一緒に、駒澤会の活動を盛り上げましょう！入部をお待ちしております。

希望される場合は、駒澤会事務局・南までご連絡ください。

| | |
|-----|--|
| 総務部 | 駒澤会の規程や運営費について検討し、活動がスムーズに行われるよう全体的な調整をしています。 |
| 広報部 | 会報誌「駒澤会だより」の発行やPR活動を中心とし、制作経験の有無にかかわらず、様々な意見を出し合い和やかに進めています。 |
| 厚生部 | 会員の皆さまが楽しく有意義な時間を過ごせるよう、各種行事を検討しています。 |

- 入会者ご芳名 -

令和6年8月以降の新規会員の皆様のご芳名を掲載させていただきます。

木下 留美子様にご入会いただきました。駒澤会にご入会いただき誠にありがとうございます。

感謝

酷暑と言われた今年の夏も終わりに近づいた8月末、駒澤大学出身で元小結松鳳山の松谷裕也さんのお店『焼肉ホルモン松鳳山』を訪れる機会に恵まれました。

船橋駅に程近いそのお店に入ると居心地の良い空間が私たち駒澤会メンバーを迎えてくれました。

駒澤会は以前から松鳳山関の取材をし「駒澤会だより」に載せたりと応援を続けており、化粧まわしを大学が贈る際もその資金のお手伝いをさせて頂きました。また、断髪式には一戸会長が参列しています。

オーナーとしてお店を切り盛りしている松谷さんは見た目こそガッチリとしていますが、細やかに気遣いして下さるナイスガイでした。引退後焼肉店で修行の後このお店をオープンしたとの事。お店で提供される宮崎県提携牧場から直送されるお肉はどれも新鮮でとても美味しく、現役時代の松鳳山関について語り合いながら頂くという贅沢な時間を堪能しました。

飾ってあった化粧まわしの前で一緒に記念写真を撮り、サイン入りのコースターもお土産に、大満足の日となりました。駒澤大学が繋ぐご縁に心から感謝申し上げます。



店自慢の肉を手にする松谷さんとサイン入りコースター

☆-★-☆-★-☆-★-☆-★
駒澤会新規会員募集中
★-☆-★-☆-★-☆-★-☆

駒澤会では新規会員を随時募集しております。縁のある駒澤大学を応援しつつ、様々な行事を通して楽しく交流しましょう♪



【駒澤会ホームページのご案内】



駒澤会 検索

スマートフォンはこちらからアクセス →



行事予定のお知らせ



- 【大学】
- 12/24~1/5 冬季全学休業期間
- 2/4~8 2月一般入試
- 3/7 3月一般入試
- 3/23・24 卒業式

- 【駒澤会】
- 1/3 箱根駅伝応援企画 ※
- 1/25 役員会
- 2/11 駒澤会新年賀詞交歓会 (★)
- 3/8 役員会

※箱根駅伝応援会は本号発行時点で開催未定となっております。詳細は決定次第、駒澤会ホームページにてご案内します

駒澤会だより 第41号

発行日：令和6年12月9日

〒154-8525 世田谷区駒沢1-23-1

発行者：駒澤大学駒澤会広報部

TEL：03-3418-9189 / Mail：komazawakai@komazawa-u.ac.jp